



発行所

一般社団法人 全日本木材市場連盟
編集・発行人 東京都区文京区小塚1-7-6
電話 03(3818)2906
FAX 03(3818)2907
毎月1回1日発行
定価 年3,000円
(会員は会費に含まれています。)

令和2年度第4回理事会開催

令和3年度事業計画、収支予算を決定
当連盟は、新型コロナウイルス感染症を巡る状況に鑑み、令和2年度第4回理事会を令和3年3月15日(月)、文京区後楽の林友ビルにおいてWeb参加を主とし、対面出席も併用して開催した。理事出席者は、理事36名(内Web参加32名)、監事2名(内Web参加1名)で、連盟の定款により、理事会は成立した。令和3年度事業計画、収支予算を決定したほか、全市連の業務運営及び第66回定期総会・提出議案(令和2年度事業報告案・決算書(暫定))について了承を得た。また、林野庁木材産業課及び同業務課の担当官もWeb参加いただいた。

【会長挨拶】

「理事及び監事並びに林野庁木材産業課・業務課担当官のWeb参加を主体とする理事会に対する参加御礼。昨年を振り返ると、コロナに明け、コロナに暮れた1年、地球温暖化を象徴するような台風や豪雨、更に豪雪等の災害も含め、各地に多くの被害が発生、被害を受けられた方々にお見舞いと共に、完全復旧・

復興をお祈り申し上げる。コロナの影響で世界経済全体が落ち込み、6月頃から多少上方修正されるも、いまだ回復途上。米国では、政権交代となったが、米中の経済等での摩擦・対立は続きそう、落ち着きを取り戻すまでは時間がかかる模様。政府の月例経済報告は、「依然として厳しい状況にある中、持ち直しの動きが続いているものの一部に弱さがみられる」とされ、2020年の新設住宅着工戸数は81.5万戸と対前年同期比9.9%減少。政府は、「骨太方針2020」に基づき、経済財政諮問会議の議論に沿い、「成長戦略会議」において、「農林水産業成長産業化」、「建築物等の木材利用拡大」、「SCの多元化・強靱化」、「SDGs」等林業・木材産業関連項目を掲げている。3年度予算においても、森林資源の適切な管理と林業の成長産業化の実現のため「林業成長産業化総合対策」等が盛り込まれている。また、現在林政審議会において議論をされている「森林・林業基本計画」は、「森林を適正に管理して、林業・木材産業の持続性を高めながら成長発展させ、2050カーボンニュートラルも見据えた豊かな社会経済を実現」することを骨子として進められている。環境問題が声高に叫ばれる中、

森林林業に近い我々木材市場の役割はますます重要となっており、木材流通の要として更なる機能発揮を目指さねばなりませんし、世界に蔓延するコロナウイルスの影響により、海外からの物流面において大きな混乱が生じており、その影響が国産材にも降りかかっている。こうした点についても、2月24日開催の「原木部会」及び「製品部会」において取り上げられた。本日の理事会は、令和3年度の事業計画等を御審議いただく重要な会議。本日の会議が、有意義なものとなりますよう理事各位にお願い申し上げ、御挨拶とさせていただきます。」

【林野庁御挨拶・情報提供等】

1. 服部浩治林野庁木材産業課総括課長補佐から、林政推進に対する御理解と御協力へのお礼などの御挨拶の後、全国の木材需給動向について、カラーのグラフ等を使って、以下の御説明をいただいた。①価格動向(原木、製材)②工場の原木入荷、製品生産等の動向(製材、合板、プレカット稼働率、チップ)③木材貿易動向(木材輸出、木材輸入)④新設住宅着工の推移⑤主要木材の需給見通し等

2. 宇山雄一林野庁業務課企画官から、御挨拶と国有林の供給調整の手法と各森林管理局の対応状況について、以下の御説明をいただいた。①供給調整手法(立木販売搬出期間延長、立木販売公告延期、請負事業発注調整、丸太販売先送り)②対応方向(需要は先行き不透明、地域や業種ごと、業種内でも繁閑差がみられる。国産材製品需要は

海外の状況に影響を受けることから状況を注視する必要(第2回中央供給調整検討委員会報告)

3. 質疑等の項目

- ・ 実態に即した国有林材販売への要望
・ 外材製品の需給ひっ迫と価格上昇
・ 国産材への代替需要
・ 原木不足、搬出経費上昇
・ 木材輸出促進・製品開発

【議事】

○議案1 「令和3年度事業計画・予算書」

令和3年度事業計画書と予算書を説明提案し、全員一致で承認された。

事業計画では、SDGs、2050年までにCO2排出ゼロを目指すという政府の発表、都市の木造木質化など林業木材市場をめぐる昨今の情勢を踏まえ、「①地球温暖化防止等に貢献する木材利用を通じたSDGsやカーボンニュートラル実現 ②非住宅及び都市部等での木材利用拡大のための法律・制度見直し等の協力・支援 ③合法木材・品質の確かなJAS製材品等の宣伝・普及及び安定供給体制の整備 ④林業成長産業化に向け、市場機能の高度発揮及びICT活用等による生産流通改革、国産材の安定供給体制等山元に利益還元できるSCMの整備・構築 ⑤行政・議会等への各種提言活動と制度改正等への取り組み ⑥安全衛生対策の徹底による安全安心な市場・職場環境の整備」等に重点に取り組むこととしている。特に「公共建築物、商業施設、福祉施設及び中高層建築物等都市部での木造・

木質化のため、都市の木造化推進協議会及び同議員連盟等と連携した、法律・制度改正等への取り組み、「SCMフォーラム等への積極参加・木材需給情報の把握と安定供給し、「スマート林業、ICT生産管理システム等への対応」、「市場等相互間の連携、素材生産及び製材等との連携強化等取引規模拡大、IT活用等による取引の効率化」、「建築・設計分野並びに行政等との連携による地域特産材の生産販売と商品開発」、「新型コロナ感染症対策の徹底、職場環境整備と車両・墜落等労働災害の未然防止・働き方改革推進」、「原木部会」及び「製品部会」開催による課題把握・対応策等検討」、「連盟未加入市場の加入促進働き掛けの継続」に取り組みこととしている。

予算では、経常収益26、542千円(対前年度予算比103.6%)、経常費用26、279千円(同比103.5%)、当期経常増減額263千円を計上した。主要な収入源である一般会費収入、福祉共済事業収入は、それぞれ前年度の100.2%、108%。国からの補事業収入は、令和3年度本予算では、仮置きで200万円を計上した。

○議案2「令和2年度の事業運営等について」次の事項について、説明し、承認を頂いた。

(1) 第48回JAS展の実施について

JAS制度の普及定着とJAS製材品の品質向上のため、三団体で、「JAS製材品展示会」を開催した。出品工場数71社(前年度49社)、出品数量608.㎡(同474.㎡)と、出品工場数は減、出品数

量も、昨年度実績を上回り、1工場当たりは8.6㎡となった。令和3年2月3日(水)に、東京で「総合調整審査会議」を開催し、特に優秀と認められた4点を農林水産大臣賞として推薦し、受賞が決定した。表彰式は、コロナ禍のため、取りやめとなった。

(2) 第24回国産材需要拡大製材品特別展

全市連、木曾木材工業協同組合(麦島照幸理事長)及び木曾官材市売協同組合(勝野智明理事長)は、1月23(土)、第24回国産材需要拡大製材品特別展示会を木曾官材市売協同組合において開催した。新型コロナ禍の中での開催で、式典は、行われず、林野庁長官賞等の入賞材が発表された。

(3) 令和2年度木材アド講習会中止について

令和2年度については、毎年恒例の木材アドバイザー講習会も新型コロナウィルス禍には、勝せず、誠に残念ながら、中止となつてしまいました。

(4) 全市連福祉共済保険について

保険事業の健全運営に向け、加入事業所数や加入人口数の増加に努めてきたが、令和3年2月時点で1,235口となった。会員市場職員の皆様の福利厚生と全市連事業運営のためにも、加入促進に御協力をお願い致します。①保障の状況(令和2年2月1日〜令和3年1月31日)・死亡保険金1件、2,000千円(前年度・1件、4,000千円)・入院給付金2件、618千円(前年度・3件、906千円)②令和2年度配当金5,527千円(年間保険料14,319千円 配

当率38.6%) (1口1,300円/月 実質798円/月で200万円の補償)

(5) 需給情報連絡協議会等について

令和2年度 第2回国産材の安定供給体制の構築に向けた中央需給情報連絡協議会

①日時・令和3年2月16日(火) 13:30〜15:30

②場所・ウェブ会議

③ポイント・木材需給動向について、昨年の秋以降、需要は回復基調に転じ、地域によっては原木不足が生じているが、全体的に先行きは依然として不透明との意見が多くみられた。・地区別需給情報連絡協議会アンケート結果を踏まえ、需給ギャップの解消に向けた需給情報の共有や、今後の需給情報連絡協議会の運営のあり方について議論し、来年度の開催に活かしていくこととなった。

(6) 令和3年度税制等について

令和3年12月00日、自民・公明の与党は、令和3年度税制改正大綱を取りまとめた。

ポイントとは、軽油引取税の課税免除の特例措置の適用期限を3年延長する(軽油引取税)。

「軽油引取税の課税免除の特例措置(農業、林業、木材加工業、木材市場業、堆肥製造業、漁船)について、木材加工業のうち、木材注葉業を適用対象から除外した上、3年延長。」等。

(7) 労働安全等について

「林材安全」フォークリフトについて労働災害防止対策

(8) 原木・製品部会について

令和3年2月24日、Web等開催した

「原木部会」及び「製品部会」での①コロナ禍における業況と対応 ②今後の見通し ③課題及び行政等への要望

(9) その他

①木材輸出の動向 ②コロナ禍の中で国の助成事業の例 ③国の補助事業木材SCM支援システム「もりんく」の紹介 ④インターネット木材入札システムパンフレット

○議案3「全市連第66回定期総会について」

事務局から下記のとおり説明提案し、全員一致で承認された。

(1) 日時・場所等(令和3年5月14日(金) 東京都文京区 於:林友ビル)



【Web理事会の様子 (1)】



〔Web理事会の様子 (3)〕



〔Web理事会の様子 (2)〕

令和元(2019)年度 公共建築物における木材の 利用実施状況

令和元年度において、基本方針で積極的に木造化を促進するとされている低層(3階建て以下)の公共建築物等が全体で83棟、合計延べ面積14,011㎡が整備された。そのうち、木造で整備(構造耐力上主要な部分である壁、柱、梁、床、壁、窓枠等)の全部又は一部に木材を利用すること。したものが全体で72棟、合計延べ面積13,698㎡。主なものは、国土交通省の公園施設、道路施設(便所等)など30施設(8,448㎡)、環境省の9施設(2,735㎡)、農林水産省では、津軽白神森林生態系保護センター・津軽署森林事務所 合同庁舎(青森県鯉ヶ沢町 2階建て 371㎡)など12施設(864㎡)。

令和元年度に内装等の木質化(天井、床、壁、窓枠等の室内に面する部分及び外壁等の屋外に面する部分に木材を利用したもので)を行った公共建築物の総数は、合計132棟であった。新築等で木質化を行った棟数52棟、模様替等で木質化を行った棟数80棟。主なものは、防衛省19棟、国土交通省42棟、財務省14棟、最高裁判所11棟及び農林水産省8棟など。

令和元年度に内装等の木質化(天井、床、壁、窓枠等の室内に面する部分及び外壁等の屋外に面する部分に木材を利用したもので)を行った公共建築物の総数は、合計132棟であった。新築等で木質化を行った棟数52棟、模様替等で木質化を行った棟数80棟。主なものは、防衛省19棟、国土交通省42棟、財務省14棟、最高裁判所11棟及び農林水産省8棟など。

令和元年度に内装等の木質化(天井、床、壁、窓枠等の室内に面する部分及び外壁等の屋外に面する部分に木材を利用したもので)を行った公共建築物の総数は、合計132棟であった。新築等で木質化を行った棟数52棟、模様替等で木質化を行った棟数80棟。主なものは、防衛省19棟、国土交通省42棟、財務省14棟、最高裁判所11棟及び農林水産省8棟など。

令和元年度に内装等の木質化(天井、床、壁、窓枠等の室内に面する部分及び外壁等の屋外に面する部分に木材を利用したもので)を行った公共建築物の総数は、合計132棟であった。新築等で木質化を行った棟数52棟、模様替等で木質化を行った棟数80棟。主なものは、防衛省19棟、国土交通省42棟、財務省14棟、最高裁判所11棟及び農林水産省8棟など。

令和元年度に内装等の木質化(天井、床、壁、窓枠等の室内に面する部分及び外壁等の屋外に面する部分に木材を利用したもので)を行った公共建築物の総数は、合計132棟であった。新築等で木質化を行った棟数52棟、模様替等で木質化を行った棟数80棟。主なものは、防衛省19棟、国土交通省42棟、財務省14棟、最高裁判所11棟及び農林水産省8棟など。

令和元年度に内装等の木質化(天井、床、壁、窓枠等の室内に面する部分及び外壁等の屋外に面する部分に木材を利用したもので)を行った公共建築物の総数は、合計132棟であった。新築等で木質化を行った棟数52棟、模様替等で木質化を行った棟数80棟。主なものは、防衛省19棟、国土交通省42棟、財務省14棟、最高裁判所11棟及び農林水産省8棟など。

令和元年度に内装等の木質化(天井、床、壁、窓枠等の室内に面する部分及び外壁等の屋外に面する部分に木材を利用したもので)を行った公共建築物の総数は、合計132棟であった。新築等で木質化を行った棟数52棟、模様替等で木質化を行った棟数80棟。主なものは、防衛省19棟、国土交通省42棟、財務省14棟、最高裁判所11棟及び農林水産省8棟など。

令和元年度に内装等の木質化(天井、床、壁、窓枠等の室内に面する部分及び外壁等の屋外に面する部分に木材を利用したもので)を行った公共建築物の総数は、合計132棟であった。新築等で木質化を行った棟数52棟、模様替等で木質化を行った棟数80棟。主なものは、防衛省19棟、国土交通省42棟、財務省14棟、最高裁判所11棟及び農林水産省8棟など。

令和元年度に内装等の木質化(天井、床、壁、窓枠等の室内に面する部分及び外壁等の屋外に面する部分に木材を利用したもので)を行った公共建築物の総数は、合計132棟であった。新築等で木質化を行った棟数52棟、模様替等で木質化を行った棟数80棟。主なものは、防衛省19棟、国土交通省42棟、財務省14棟、最高裁判所11棟及び農林水産省8棟など。

令和元年度に内装等の木質化(天井、床、壁、窓枠等の室内に面する部分及び外壁等の屋外に面する部分に木材を利用したもので)を行った公共建築物の総数は、合計132棟であった。新築等で木質化を行った棟数52棟、模様替等で木質化を行った棟数80棟。主なものは、防衛省19棟、国土交通省42棟、財務省14棟、最高裁判所11棟及び農林水産省8棟など。

令和元年度に内装等の木質化(天井、床、壁、窓枠等の室内に面する部分及び外壁等の屋外に面する部分に木材を利用したもので)を行った公共建築物の総数は、合計132棟であった。新築等で木質化を行った棟数52棟、模様替等で木質化を行った棟数80棟。主なものは、防衛省19棟、国土交通省42棟、財務省14棟、最高裁判所11棟及び農林水産省8棟など。

令和元年度に内装等の木質化(天井、床、壁、窓枠等の室内に面する部分及び外壁等の屋外に面する部分に木材を利用したもので)を行った公共建築物の総数は、合計132棟であった。新築等で木質化を行った棟数52棟、模様替等で木質化を行った棟数80棟。主なものは、防衛省19棟、国土交通省42棟、財務省14棟、最高裁判所11棟及び農林水産省8棟など。

令和元年度に内装等の木質化(天井、床、壁、窓枠等の室内に面する部分及び外壁等の屋外に面する部分に木材を利用したもので)を行った公共建築物の総数は、合計132棟であった。新築等で木質化を行った棟数52棟、模様替等で木質化を行った棟数80棟。主なものは、防衛省19棟、国土交通省42棟、財務省14棟、最高裁判所11棟及び農林水産省8棟など。

令和元年度に内装等の木質化(天井、床、壁、窓枠等の室内に面する部分及び外壁等の屋外に面する部分に木材を利用したもので)を行った公共建築物の総数は、合計132棟であった。新築等で木質化を行った棟数52棟、模様替等で木質化を行った棟数80棟。主なものは、防衛省19棟、国土交通省42棟、財務省14棟、最高裁判所11棟及び農林水産省8棟など。

令和元年度に内装等の木質化(天井、床、壁、窓枠等の室内に面する部分及び外壁等の屋外に面する部分に木材を利用したもので)を行った公共建築物の総数は、合計132棟であった。新築等で木質化を行った棟数52棟、模様替等で木質化を行った棟数80棟。主なものは、防衛省19棟、国土交通省42棟、財務省14棟、最高裁判所11棟及び農林水産省8棟など。

令和元年度に内装等の木質化(天井、床、壁、窓枠等の室内に面する部分及び外壁等の屋外に面する部分に木材を利用したもので)を行った公共建築物の総数は、合計132棟であった。新築等で木質化を行った棟数52棟、模様替等で木質化を行った棟数80棟。主なものは、防衛省19棟、国土交通省42棟、財務省14棟、最高裁判所11棟及び農林水産省8棟など。



〔国土省 国立民族共生公園 工房〕



〔農林水産省 津軽白神森林生態系保護センター等合同庁舎〕

5、372㎡で昨年より増加(対前年度比128%)した。引き続き、国の御尽力による木材利用の拡大を期待したい。

■「みどりの学術賞」武内和彦博士、田畑哲之博士が受賞

今年で第15回となる「みどりの学術賞」について、武内和彦博士、田畑哲之博士の2名に授与することが決まりました。授賞式は令和3年4月23日(金曜日)に開催予定の「みどりの式典」において行われます。

「みどりの学術賞」は、「みどり」についての国民の造詣を深めるために、国内において植物、森林、緑地、造園、自然保護等に係る研究、技術の開発その他の「みどり」に関する学術上の顕著な功績のあった個人に内閣総理大臣が授与するものです(平成18年8月8日閣議決定)。受賞者は、「みどり」に関する学術に深い見識を有する者で構成される「みどりの学術賞選考委員会」での審議を経て、決定されます。

2. 今年の受賞者について

第15回となる今回は、「人と自然が共生する社会(自然共生社会)の実現に向けた地域生態学の実践とサステイナビリティ学への展開」に関する功績として武内和彦(たけうちかずひこ)博士(公益財団法人地球環境戦略研究機関理事長、東京大学未来ビジョンセンター特任教授)と、「光合成生物ラン藻のゲノム解

読に始まる植物ゲノム科学の推進と持続的農業生産系への展開」に関する功績として田畑哲之(たばたさとし)博士(公益財団法人かずさDNA研究所副理事長・所長)の2名に対し、授与することが決まりました。

3. 授賞式について

授賞式は、令和3年4月23日(金曜日)に開催予定の「みどりの式典」(於:東京都内)において行われます。

■林野庁春の人事異動(抄)

(4月1日付等・順不同・敬称略)

- ・(退職) ↑原田隆行(道局長) ↑猪島康浩(森林整備センター所長)
- ・(岐阜署長) ↑久保芳文(九州局整備部長) ↑大道一浩(庁広報官) ↑服部浩治(庁木産課総括) ↑鈴木清史(福井県課長) ・(庁業務課供給対策班補佐) ↑藤本達之(庁木産課推進官) ・(庁木利課消費対策班補佐) ↑石飛法子(庁治山課補佐) ・(庁木利課合法指導班補佐) ↑氏橋亮介(庁計画課指導官)
- ・(森林整備センター森林業務部長) ↑河野裕之(道局整備部長) ↑中野亨(山形署長) ↑益田健太(大分西部署長) ↑津脇普嗣(庁業務課企画官) ・(徳島署長) ↑島田喜代司(庁整備課専門官)
- ・(退職) ↑田口護(庁業務課企画官) ↑善行 宏(近中局整備部長) ↑清水隆典(道局調査官) ↑白角義人(米代西部署長) ↑小向克之(留萌北部署長) ↑岡田靖志(道局経理課長) ・(庁業務課供給

対策班補佐) ↑藤本達之(庁木産課推進官)

- ・(空知署長) ↑武森美紀男(庁計画課補佐) ・(上川北部署長) ↑白岩誠(道局資源二課長) ・(宮崎南部署長) ↑福岡貢史(宗谷署長) ↑加納正幸(檜山署長) ↑伊藤俊之(道局調整官) ・(飛騨署長) ↑牛尾光(道局調整課長) ・(宮崎署長) ↑米田雅人(仙台署長) ↑清水俊二(東京神奈川署長) ↑伊藤博通(森林整備センター業務部次長) ・(木曾署長) ↑青木正伸(下越署長) ↑中島勇雄(宮城北部署長) ↑仙北谷誠(東北局整備課長) ・(伊豆署長) ↑森實祐子(関東局センター所長) ・(近中局監査官) ↑武部広(棚倉署長) ↑宇野正吉(関東局保全課長) ・(庁監査官) ↑小川靖志(利根沼田署長) ↑中村昌有吉(庁研究指導課対策官) ・(長崎署長) ↑高木敏(天竜署長) ↑松尾清史(関東局普及課長)
- ・(中信署長) ↑石橋岳志(庁監査室長)
- ・(九州局業務管理官) ↑川戸英騎(中部局整備部長) ↑山口孝(塩那署長) ↑里見昌記(近中局計画課長)
- ・(石川署長) ↑酒向邦夫(中部局企画官) ・(広島北部署長) ↑細川博之(島根署長) ↑津田京子(佐賀署長) ↑白石健二(庁管理課補佐)
- ・(保険センター保険業務部長) ↑山崎準(滋賀署長) ↑梅木洋一(広島署長) ↑小椋重信(森林保険センター上席参事)
- ・(東北育種場長) ↑中村隆史(京都大阪所長) ↑中塚仁司(庁経営課補佐) ・(嶺北署長) ↑小笠原建夫(安芸署次長) ・(北海道育種場長) ↑宮俊輔(沖繩署長) ↑伊藤香里(農村振興局地域振興課補佐)

雑記帳

郊外に住んでいるので、コロナ禍の中、在宅勤務日や休日の早朝、6km程のお気に入りコースを歩くと、けっこう里の自然を感じる事ができる。住宅地を過ぎ、川沿いと、農道を行くと、畦道のカキドオシやナズナの花、シジミチヨウ、ヒバリのさえずり。3月中はスズメ等通年みられる野鳥に加え、冬から春にしか見られないオオバン等数種の水鳥など毎回、十数種類の野鳥を観察できた。「なんだスズメか、と言って馬鹿にするが、スズメの事をどれほど知っているのか」と学生時代に野鳥の会メンバーに諭されたことがある。普段の当たり前の事柄について、一度ゆっくり見直すことも意味があるということか。どんなに自分が物を知らないかを自覚する事も、間違いなく、今より一歩前進ということだろう。とはいえ、歩道橋上から、晴れ渡った日にしか見えない、凛々しい冠雪の富士山、たまに見かける川面すれすれを真っ直ぐ飛ぶ宝石のようなカワセミや、精悍なカワウの飛ぶ姿を見ると、とても得した気分になるのは不思議である。かつて、どこでも見られた、ごく当たり前の風景が、身近から徐々に失われて行った。以前は、乱開発等により身近な自然が失われて行ったが、これからは、人為の地球温暖化等による環境の変調・破壊を心配しなければならぬ。今年の東京の桜の開花は、昨年同様、平年よりも12日も早い。早い春の訪れは、歌にもあるように嬉しいことである反面、地球温暖化の顕著な兆しとすれば、喜んでばかりはいられない。